

北白川EFEOサロン 2018-2019
日本における宗教と民衆への教え（16～19世紀）



École française
d'Extrême-Orient
EFEO



歌川 国芳《高祖御一代略図》〔建治三年九月身延山七面神示現〕
都立中央図書館特別文庫室所蔵



ISEAS
Italian School
of East Asian
Studies

2019年 4月 12日（金） 18:00～

「施印」というメディア

—近世後期京都「孝学所」施印の流通と意味—

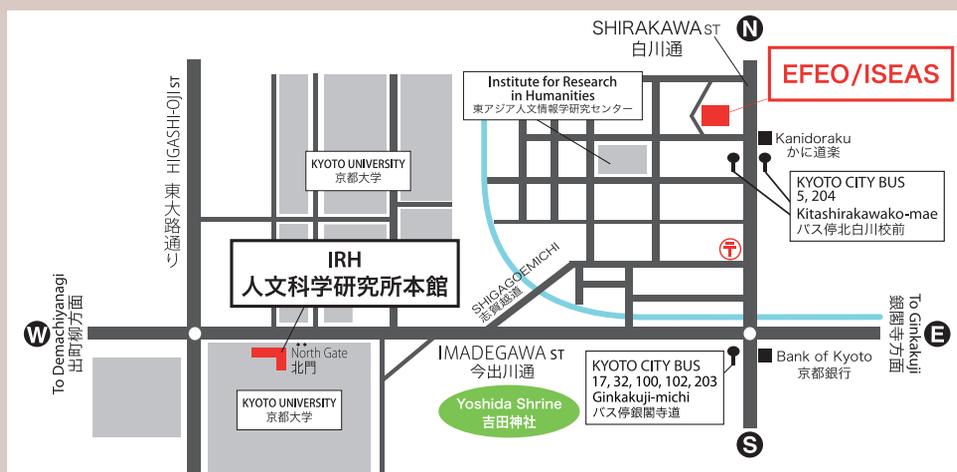
講師：ニールス・ファンステーンパール（京都大学・准教授）

「施印」とは何か。教化目的で無料配布された印刷物という大雑把な定義は定着しているようだが、その作成・形態・内容・流通・受容などの総体は不明のままである。しかし、施印はどの書物よりも大量かつ広範囲で流通し、近世社会を隅々まで染み渡るメディアであったため、その全貌の究明が大きな課題であると考えられる。

本発表では、近世後期京都の水火天満宮境内にあった「孝学所」を事例に、二つの問題を解明していきたい。第一に、無料で提供された施印とは、書肆や市場経済の「見えざる手」を借りられない状況のもと、どのような手段で読者の手に届けられたのか。第二に、私費を投じてでも世に届けたい、と思わせる施主の志とはいかなるものであったのか。

資本原理を象徴する商業出版を前提とする従来の研究に、社会原理に駆り立てられた「施印」の視点を加えることにより、バランスの取れた近世書物文化史を目指す。

場所：フランス国立極東学院京都支部（EFEO Kyoto）



使用言語：日本語

研究者・学生対象

要事前申込

efeo.kyoto@gmail.com

または

075-701-0882 まで